

# 築地憲三郎・吉行秀和・荒木マサヒロ 3 人展

会場：奄美大島 田中一村記念美術館(奄美パーク内)

2021年12月4日(土)~12月19日(日)

築地憲三郎氏は当フォトサークル DAN の会員ですので、会員の作品を下部に掲載しております。

## ご挨拶

平成 8 年からデジタルカメラによる写真撮影を趣味として始めて 25 年になりました。仕事との合間に撮影に励み、2019 年の京都での舞妓撮影会で特選入選を果たし、今回は縁がありまして奄美大島で 3 人展を開く事が出来ました。奄美大島は亜熱帯地域なので、私の住んでいる関西は四季折々の風情があります。今回の写真展で奄美大島の方々が春夏秋冬の素晴らしい景色を堪能して頂けましたら、私は私の故郷に良いプレゼントが出来た事を幸せに思います。



美術館入り口



写真展展示 会場内風景





## 南海日日新聞記事

新 聞 2021年(令和3年) 12月6日 月曜日 社 会 (8)

### 奄美の自然生き生きと表現

田中一村記念美術館  
写真展「奄美の輝き・3人展」

奄美市笠利町の田中一村記念美術館は4日から写真展「奄美の輝き・3人展」を開催している。期間は19日まで、奄美の写真家3人が撮影した計65点の作品が展示されている。

写真展は喜界島出身の写真家・吉行秀和さんが写真家仲間の荒木マサヒロさんと築地憲三郎さんを誘い、2019年に企画。20年の開催を予定していたが、新型コロナウイルスの影響で延期となり、1年越しに実現した。

吉行さんは今回の写真展に向け、奄美大島と喜界島で撮影。「島からの贈り物」をテーマに、夕暮れの浜辺やマンングロープなど、奄美の美しい自然を生き生きと表現した。

奄美の星空の写真を多く手掛ける荒木さんの作品や、同市笠利町出身で大阪府在住の築地さんによる花鳥風月をモチーフにした写真など、個性豊かな作品が展示されており、訪れた人は時間をかけじっくりと作品を鑑賞していた。

写真展に訪れた池田さおりさん(49)は「夕暮れに水面と人のシルエットを写した写真の光の加減がとてもきれい。(写真を見て)自然豊かな場所にいるんだなと感じた」と話した。

吉行さんは「せっかくなので自然遺産になったから、奄美のきれいな自然を見に来てほしい」と来場を呼び掛けている。

時間は午前9時〜午後6時。最終日の19日は午後4時まで。観覧無料。問い合わせ先は電話0997(55)2635田中一村記念美術館。

作品をしつくり眺める観覧者ら19日、奄美市笠利町

シマ かがや  
奄美の輝き・3人展

奄美を愛する3人の写真家が集まった。  
吉行秀和 / 築地憲三郎 / 荒木マサヒロ

2021.12/4 sat → 12/19 sun (休館日 12/15 wed)  
9:00 ~ 18:00 最終日12/19は16:00まで 観覧無料

輝きの刻!  
〜アダン〜  
夕暮れ刻  
あまみの浜辺  
島からの贈り物  
吉行 秀和  
1958生  
喜界島出身  
shimakarano\_okurimono

築地 憲三郎  
笠利町 出生 大島在住

2022  
奄美の星空  
MASAHIRO ARAKI

田中一村記念美術館 (奄美パーク内) TEL 0997-55-2635  
〒894-0504 鹿児島県奄美市笠利町節田1834

共催：鹿児島県奄美パーク・田中一村記念美術館  
後援：南海日日新聞社、奄美新聞社、あまみエフエム・ディ！ウェイヴ、エフエムたつごう

## 築地 憲三郎氏の出展作品



回想

撮影地 京都旧府庁



逆さ富士

撮影地 山梨県 本栖湖



祈り

撮影地 タイ バンコク



化粧直し

撮影地 京都智積院



自然界の摂理

撮影地 奈良県 藤原宮跡



アユタヤ王朝盛衰

撮影地 タイ アユタヤ



語らい

撮影地 千葉県 印西市



秋冷の候

撮影地 京都 永観堂



親子の愛

撮影地 兵庫県 豊岡市



機底の芸術

撮影地 大阪伊丹空港



歴史ロマン

撮影地 奈良県 宇陀市



旅立ち

撮影地 大阪伊丹空港

## 展示会をふり返って

15日間に2467名の方々にご来場頂きました「奄美の輝き・3人展」は好評の内に無事終了致しました。奄美の方々がどのような写真に興味を示されるか分からないまま初日を迎えました。三人三様の写真が注目され新聞が報道した事もあり最終日まで客足が途絶える事はありませんでした。初日に来場されて「逆さ富士」の前で手を合わせてしばらく佇んでいらっしゃる親娘が目にとまり声をかけましたら、長い間住まれた静岡からふる里奄美に転居されて間もないとの事で静岡では富士山を守り神として朝夕崇拝をされていたそうです。

本栖湖からの富士山は初めてご覧になられたとの事で高齢で現地には行けませんので、目の前の素晴らしい富士山を冥土への土産にされたいとの事で展示期間中3回会場においてになりました。

今回の展示会を通して苦勞して撮った写真は相手の心にも通じる事を実感しました。最後に展示会場の設営から開催期間中を通してお世話になりました田中一村記念美術館のスタッフの皆さんに心から御礼を申し上げます。